（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	療育ケアMARINE RAINBOW 本山			
○保護者評価実施期間	令和6年　9月　10日	～	令和6年　10月　9日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	28名	（回答者数）	28名
○従業者評価実施期間	令和6年　9月　10日	～	令和6年　10月　9日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	4名	（回答者数）	4名
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年　10月　16日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員の意見が取り入れやすく、職員間の連携もスムーズに出来ている。そのような背景から職員のストレスも少なく支援にも良い影響が出ている。	職員がお互いの意見を尊重していることで活発な意見交換が出来て、多角的な考えを支援に反映できている。 休憩中には仕事に触れないような環境を作っている。 ミーティングや振り返りも行うが、それ以外の時間にも職員同士が積極的にコミュニケーションを取っている。	管理者のみならず、職員が話し合いの司会を務めたり、一人ひとりが自分の役割を理解して動けるような環境を作っていく。
2	児童様に来所したいと思って頂けるように、日々の活動プログラムを変えて取り組んでいる（運動系、頭脳系、工作系など）。	児童様の特性や様子に応じて、毎日の活動を考えている。 また、保護者様の方にも活動をどのような目的を持って取り組んでいるか連絡帳を通してお伝えしている。 ルール説明に関しても、口頭だけではなくてルールブック（端的な文章、絵もしくは写真）を作成し、視覚的にも理解を得られるようにしている。	学年や特性も分かれているが、みんなが楽しめるように難易度設定や活動の段階付けをより明確にして、導入の段階から参加したいと思えるようにしていく。
3	他児童様の特性に応じて個別で対応できる環境を整えている。	癇癪を起したり、課題に集中したい児童様がいるため、都度、個室へ誘導し職員と一対一で対応することを意識して取り組んでいる。	同様の対応を継続しつつも、保護者様の方にもご自宅や学校での様子を聞いて、常に対応のアップデートができるように努めていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	専門職が少ない中で活動を行っているため、活動の目的が偏ってしまうことがある。	活動を考えるのは様々な媒体から情報を得ることができるが、療育的観点を取り入れるには文献や専門書を読んで取り入れる必要があり、そこへ時間が割くことが出来ていない。	職員全員で集まる時間をミーティングや振り返りだけではなく、勉強会にも注力していき、職員一人ひとりのスキルアップを目的とした取り組みを行っていく。
2	同系列の施設が近距離であるため、職員の行き来(掛け持ち)がある際に児童様の特性把握に時間を要してしまう。	常勤で努めている職員も多いが、同系列の施設を掛け持ちしている職員が来てくださることもあり、その場合、児童様の特性が把握しきれずに、特性を把握している職員が対応せざるを得ない状況になってしまうことがある。	掛け持ちで来ていただく職員にも隙間時間をみて児童様の特性を伝達していく。 ある程度、児童様の特性を把握してなくても対応できる役割を担ってもらう。 常勤職員の人数を増やして、掛け持ちの必要性を無くしていく。
3			